

第3回 東京グリーンビズアドバイザーボード 意見交換 議事概要

- 日 時 令和5年11月1日（水曜日） 16時30分から18時00分まで
- 場 所 東京都庁第一本庁舎33階北塔特別会議室N6
- 出席者 安藤委員、小川委員、小林委員、酒井委員、下村委員、島谷委員、吉高委員、渡部委員

**【議事要旨】**

東京グリーンビズを推進していくにあたり、「これからの100年を見据え、東京の緑に必要なこと」をテーマとした各委員からのプレゼンテーションの内容について、委員の知見等も踏まえ、意見交換を実施

**【主なご意見】**

- ・森林環境譲与税をどのように活用するか。東京産材の利用を促進するため、需要を創出し、マーケットを創うことは重要。港区の「みなとモデル」は参考になる
- ・地形と歴史を踏まえた個性あるみどりの創出が必要
- ・目指すべきみどりのコミュニティを創るに当たって、公園の規制の洗い出しや規制の緩和が重要
- ・意識の変化のためにも、多摩産材が見えるところに使うことが重要
- ・自然史博物館はあった方がいい。ただ、建設には時間が掛るため、江戸博を活用し、文化を中心とした博物館でも文理融合を図り、生き物と人の関わりの歴史を展示すべき
- ・生物多様性に対する住民意識の変化のためには、伝統的な知識や地域の知恵が大切
- ・緑の回廊を作るには、ネットワークづくりを支援する団体等に話を聞くことが重要
- ・木材の活用には、投資家などに木材の最終的な価値を見せることが必要。CLT 建材はその価値がまだまだ見えない。
- ・開発が害だという意見もあるが、インセンティブと規制がない限り、良心に頼っているだけでは回避できない。エンバイロメントバンク（自然豊かな土地にして価値を上げて売る）のような仕組みが必要ではないか

- ・承認要求が満たされ、行動変容を起こすようなシステムが、インプリントされる形でやると人は動くのではないか
- ・若い人と大人と一緒にできるコミュニティがあると面白い
- ・木材利用も非常に重要で、建築は進んでいるが土木で進んでいない。東京都自らが利用をするのが良い
- ・海の中にも海苔などの緑があり、川などの水辺を利用した緑化を考えると回廊化も非現実的ではない
- ・緑にはどういう機能と価値があって、元々の自然にどう手を加えていくか、歴史を含め100年後を見据えた教育が大切
- ・新しい概念と今までの施策をどのように融合し、どう繋ぐかがポイント
- ・前は100年後の生物多様性を含め景観がどうなるかの話だった。今回は100年後の緑、文化の話になり、安全・安心という言葉も出た。これに健康や安らぎを入れ、広く深く考えていきたい
- ・世代が変わり、価値観が変わってきている
- ・新しい仕組みが求められている中で、これまで我々の分野で議論が出来ていなかった金融などを含めた議論が必要
- ・私たちの世代でも行動意欲のある人はいるので、その力をどのように地域に還元するかが重要
- ・インセンティブがないと人が動かないという話もあったが、高校生や大学生だけでもまず始めてみるのが大事
- ・新しい自然と文化を東京から発信しなければならない
- ・クオリティがいいことをしようと思うと、お金と労力をどのように確保するかが課題
- ・次回は、グリーンビズについてどう動かすのが良いか議論したい
- ・都には、すぐにできることとそうでないことがあるが、今後の取り組みについて話をしてもらい、単なるディスカッションに終わらせない工夫を考えて欲しい